



東地中海地域ニュース

シリア：最近の地域情勢についてビラール情報相の発言 (1月16日付現地紙)

1月16日、シリアのビラール情報相は最近の地域情勢に関する記者会見を行った。

1. ガザ情勢

19人の死傷者と多数の負傷者を出した15日のイスラエル軍によるガザ攻撃は野蛮な行為であり、シリアはこれを強く非難する。この醜い犯罪行為は、中東を訪問したブッシュ米大統領がパレスチナ人民に対する攻撃に青信号を出したことによるものである。

2. レバノン問題

シリアはアラブ外相会議で出された声明の包括的計画を支持しており、声明内容を実施するためにムーサ・アラブ連盟事務総長が払っている努力を支援する用意がある。シリアはアラブ外相会議の声明で打ち立てられた勝者も敗者もなくとの原則を追及している。

(シリアが反政府勢力に圧力をかけるべきとのサウジ外相の発言に関して) レバノン諸派と友好関係を持っているのはシリアだけではない。サウジとエジプトも諸派と友好関係を有している。アラブ諸国の計画は、レバノン諸派に圧力をかけて問題解決を図ることを求めているのであろうか。レバノン国民の合意による解決が求められているのではないか。

3. アラブ首脳会議

今回のブッシュ米大統領の中東訪問において、パレスチナ難民の帰還権を放棄することを呼びかけ、アラブ和平イニシアティブの終了を(事実上)宣言したことは極めて危険なことである。

ブッシュ米大統領にパレスチナ難民の帰還権を保証し、保護する国際的な決定を破棄する権限はなく、ブッシュ米大統領の発言は驚きを禁じえない。

また同大統領は、今回の訪問で湾岸諸国をけしかけ、イランとの関係を害しようとする試みに失敗した。